

「HIV感染者における悪性腫瘍に関する研究」について

研究責任者 東京大学医科学研究所

先端医療研究センター感染症分野

古賀道子

【はじめに】

HIV感染者の予後は、有効で副作用の少ない飲みやすい薬剤で治療できるようになり、格段に改善されました。現在は寿命も非感染者に近いところまで伸びております。しかし、新たに問題となってきたのが、発癌の頻度が高い点です。

【目的と方法】

本研究では、東京大学医科学研究所附属病院に保存されている診療録（カルテ）や抗HIV療法の内容、血液検査の情報、発癌の有無やその治療を調べ、それにより実際の臨床現場におけるHIV感染者様の発癌予防に寄与することを目的としています。

【対象となる患者様とご協力いただきたいこと】

- ・対象： 1996年1月以降、東京大学医科学研究所附属病院を受診されたHIV感染患者様
- ・ご協力いただきたいことは1996年1月～2020年1月までの通常診療において得られた診療情報、血液検査データ、病理組織結果を本研究に使わせていただくことです。

【研究期間】

所長・病院長許可～2020年9月末

【個人情報保護の方法】

患者様の個人情報を保護するため、診療情報や血液検査データ、病理組織結果を使わせていただくにあたっては、それらに直接患者様を識別できないような登録番号を付け（匿名化）、その番号と個人情報とを記した対応表を作成し、厳重に管理します。

【研究参加による利益・不利益】

利益・・・本調査に参加いただいた患者様個人には特に直接的に利益と考えられるようなことはありませんが、研究結果が発癌の早期発見や予防につながり、患者様個人の治療にも活かされる可能性があります。

不利益・・・保存されている診療情報と検査データのみを用いるためありません。

【研究終了後の情報・データの取り扱い、研究参加の辞退について】

研究成果を論文発表した場合には、その検証可能性を確保するために「東京大学医科学研究所生命科学系研究データ保存のガイドライン」に則り、情報・データを長期間保存させていただきますことをご了承ください。

【研究成果の公表について】

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者様の個人情報情報は厳重に守られます。

【研究参加の辞退について】

本研究への参加や将来の研究への参加の辞退はいつでも可能です。参加を辞退されたい場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。辞退の連絡を受けた場合、それ以降、患者様の診療情報等を本研究に用いることはなく、辞退によって患者様が不利益を被ることはありません。しかしながら、辞退のご連絡を受けた時に、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合は結果を廃棄できない場合もありますことをご了承ください。

【問い合わせ窓口】

この研究についての質問やご自身のデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合、あるいは、本研究へのデータの使用について辞退されたい場合は、下記までお問い合わせ下さい。また、本研究について詳しくお知りになりたい場合には、研究計画書等の資料をご覧ください（但し、他の対象者等の個人情報や知的財産の保護等に支障がない範囲内で）、下記の窓口までご連絡ください。

東京大学医科学研究所先端医療研究センター 感染症分野 古賀道子

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

TEL:03-5449-5338, FAX:03-5449-5427

E-mail:michiko@ims.u-tokyo.ac.jp